

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	体験活動推進事業	会計	一般会計	事業No.	745	施策順No.	29-002
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-1-14-1		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	生涯学習・スポーツ課		
施策	29 ふるさと意識の醸成			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	小学生、中学生、高校生						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		小・中学校の児童・生徒数	9639	9559	9464	9352	9287		
		小・中学校の教職員数				720	720		
意図		飯田市の多様な資源を活用した体験活動を行ってもらう							
対象をどう変えるか		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		児童・生徒の体験人数(人)	143	210	209	227	450	300	A
		教職員の体験人数(人)		20	19	20	19	20	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	市外で行われていた集団宿泊体験を市内に誘導するため、市内で行う自然・生活・産業体験等の地域資源を活かした宿泊体験を補助対象としたことにより体験人数が増加した。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地育力向上連携システム推進計画の3つの柱の一つに体験活動の推進を位置づけ、特に子どもたちが、自然体験・生活体験・交流体験を通じて「生きる力」や「社会をつくり、社会を運営し、社会を絶えずより良くつくり変えていく資質や能力を高める」ことを重点目標に、まずは学校教育における体験活動を推進している。</li> <li>・本事業では、小中学校における体験活動支援、高校生の体験活動支援、教員の農家宿泊体験研修等を実施している。</li> </ul>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 小・中・高等学校の体験活動の支援(体験活動に対する補助、コーディネート) 小学校:浜井場小(35人)上久堅小(20人)千代小(25人)千栄小(5人)竜丘小(143人)(農業宿泊体験) 丸山小(108人)(自然宿泊体験) 中学校:飯田西中(74人)(農業宿泊体験) 高等学校:下伊那農業高校(40人)(地域文化体験)	1 支援校数 参加人数 補助金額	1 8校 450人 1,553千円
	2 教職員研修の実施 (1) 結いキャリアアップ講座の実施 農業体験研修 7月30日から7月31日 参加者数9人 地域文化研修 12月11日から12月12日 参加者数10人 (2) 市内小中学校教員の地域研修の実施	2 (1) 参加人数 (2) 支援校数	2 (1) 19人 (2) 14校
23年度実施計画	1 小・中・高等学校の体験活動の支援(体験活動に対する補助、コーディネート) 小学校:浜井場小、上久堅小、千代小、千栄小、竜丘小、丸山小ほか 中学校:飯田西中 高等学校:下伊那農業高校 ほか	1 支援校数 参加人数 補助金額	1 8校 352人 1,328千円
	2 教職員研修の実施 (1) 結いキャリアアップ講座の実施 (2) 市内小中学校教員の地域研修の実施	2 (1) 参加人数 (2) 支援校数	2 (1) 29人 (2) 28校

3 事業コスト

事業費	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	特定財源	国庫支出金				
		県支出金				
		起債				
		その他			20	
	一般財源		2,270	1,975	2,441	
	計(A)		2,270	1,975	2,461	
	正規職員所要時間			400		
	臨時職員等所要時間			50		
	人件費計(B)			1,484		
	トータルコスト A+B			3,459		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会からは、「体験活動をするために地域情報をワンストップで発信するコーディネーター機能が重要」との意見をいただいた。</li> <li>・第5次飯田市基本構想基本計画推進委員会から、体験活動の希薄化が言われている。地元の小中学校を対象にして更に意図的に進めていく必要がある。</li> </ul>
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①地域を知る ②地域を誇りに思う	施策の成果指標又はムトス指標	ふるさとを誇りに思っている市民の割合:% この地域に住み続けたいと考えている高校生の割合:%
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	飯田の資源とは、自然、人、歴史、文化、産業などであり、これを活用した体験活動を行うことにより、生きる力を育むと同時に地域を知り、地域の素晴らしさに気づききっかけとなり、地域を誇りに思う意識の醸成につながっている。		
	後期に向けた課題	子どもたちの体験機会が減っている時代にあつて、学校での体験活動の推進は重要な取り組みとして位置づけている。一方、学校での取り組みは授業時間の制約があるため、地域における体験活動を推進していく必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	地域資産を活用した体験的な教育を義務教育を中心に意識的に進め、子どもたちの生きる力を育んだ。ふるさと意識を醸成していくことで、将来の地域を担う人材を地域で育てる、という思いで取り組んできた。		
	後期に向けた課題	今後さらなる推進を図っていく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	保護者負担が増大すると、事業実施が困難となる恐れがあるため、積極的なコスト削減はしていない。		
	後期に向けた課題	現状維持		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	保護者負担が増大すると、事業実施が困難となる恐れがある。市の費用負担は適当である。		
	後期に向けた課題	現状維持		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	体験の受入農家や地域活動団体が主体となって子どもたちの体験の受入を行っている。市は学校と農家・地域団体との調整を行い事業実施を支援している。		
	後期に向けた課題	子どもたちの教育的効果を高めるためには、受入農家の体験プログラムを充実させていく必要がある。市は、学校と農家等のコーディネート機能を充実させていくことが求められる。		
全体を通じて	4年間の振り返り	18年度より本格的に開始した事業であり、実施校の増加に努めてきた。		
	後期に向けた課題	学習指導要領の改訂により、総合的な学習の時間が減少し体験に当てる授業時間の確保が難しくなっている。農業宿泊体験は、補助金を交付しても保護者の負担が大きいため宿泊を伴わない体験プログラムの検討していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要があるかどうか	ない	成果指標や指標値を修正する必要があるかどうか	ない
-----------------------	----	---------------------	----	------------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------